

# 介護の仕事に対する イメージアップのための取組について

平成28年2月1日

鳥取県福祉保健部長寿社会課

# 鳥取県の概要

〈人口〉 570,188人(平成27年10月1日現在)

〈年齢別構成割合〉

年少人口(0~14歳):13.0%

生産年齢人口(15~64歳):57.1%

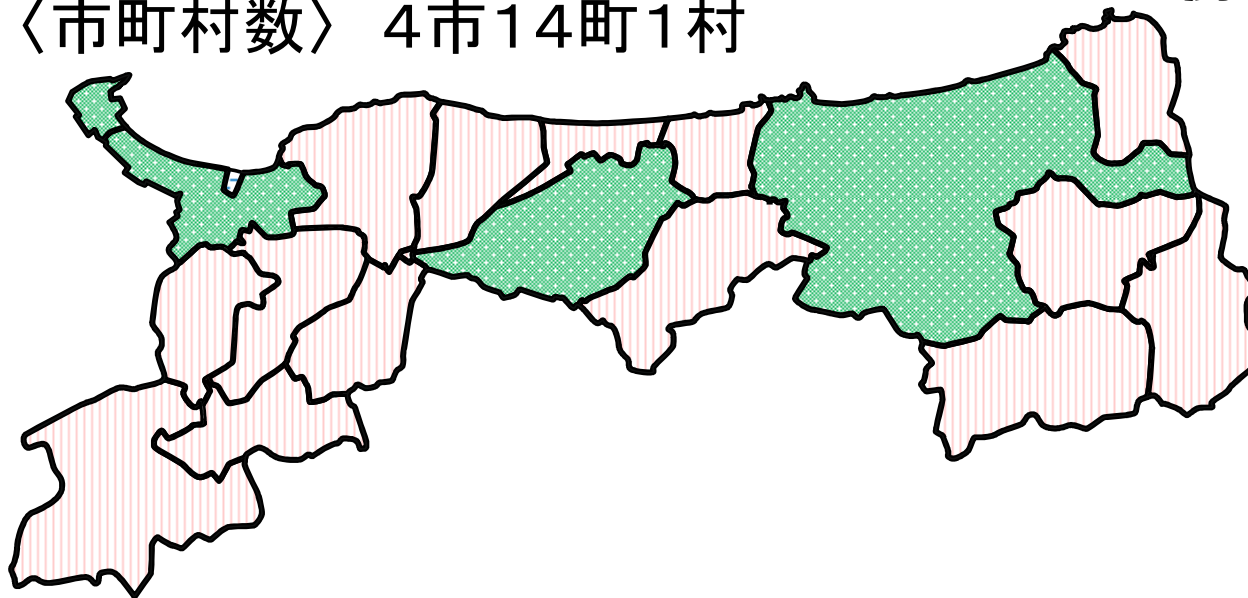
老年人口(65歳~):30.0%

※75歳以上 15.8%



鳥取県のマスコットキャラクター  
トリピー

〈市町村数〉 4市14町1村



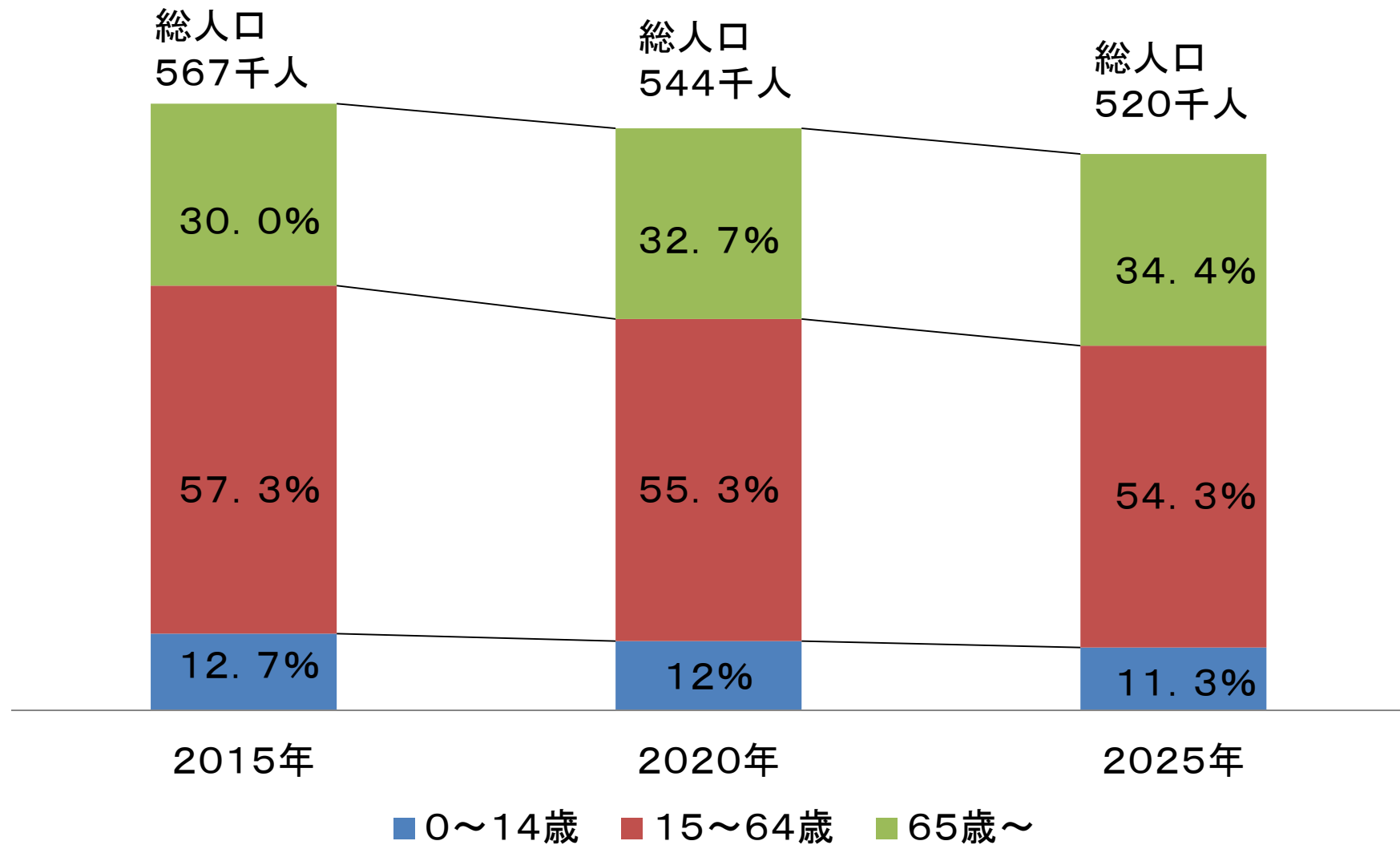
# 鳥取県の介護人材需給推計値

2013年度(平成25年度)の介護職員数:9,895人

	需要見込み <small>(※通所リハビリテーションの職員数を除く)</small>	現状推移シナリオによる供給見込み	充足率 (全国平均)
2017年度 (平成29年度)	10,586人	10,168人	96.1% (94.0%)
2020年度 (平成32年度)	11,028人	10,400人	94.3% (91.1%)
2025年度 (平成37年度)	11,541人	10,634人	92.1% (85.1%)

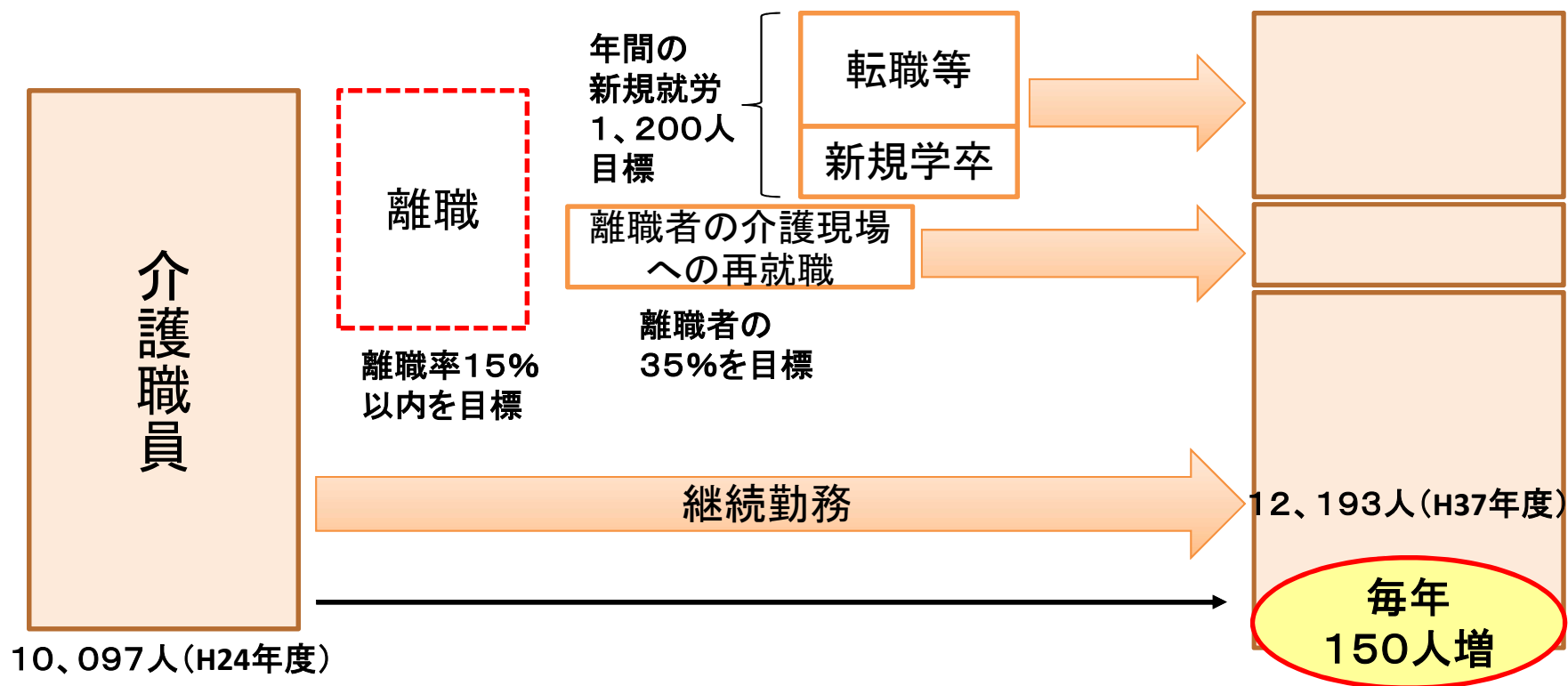
需給ギャップ 907人

# 鳥取県人口の将来推計



# 介護人材確保基本フレーム

- 要介護認定者数は平成24年(2012年)から平成37年(2025年)に1.21倍になると見込まれる。
- 現在と同程度の配置のもとに介護を行うとすれば、介護事業所に勤務する職員がさらに約3,500名必要。
- 過去の実績をふまえ、離職率を年間15%、同じ介護現場への転職率を35%として目標値を設定すると、**平成37年(2025年)に向け毎年150人程度介護職員を純増させる必要がある。**(離職者を踏まえると毎年約1,200人の新規参入が必要)



# 介護のイメージに対するアンケート調査

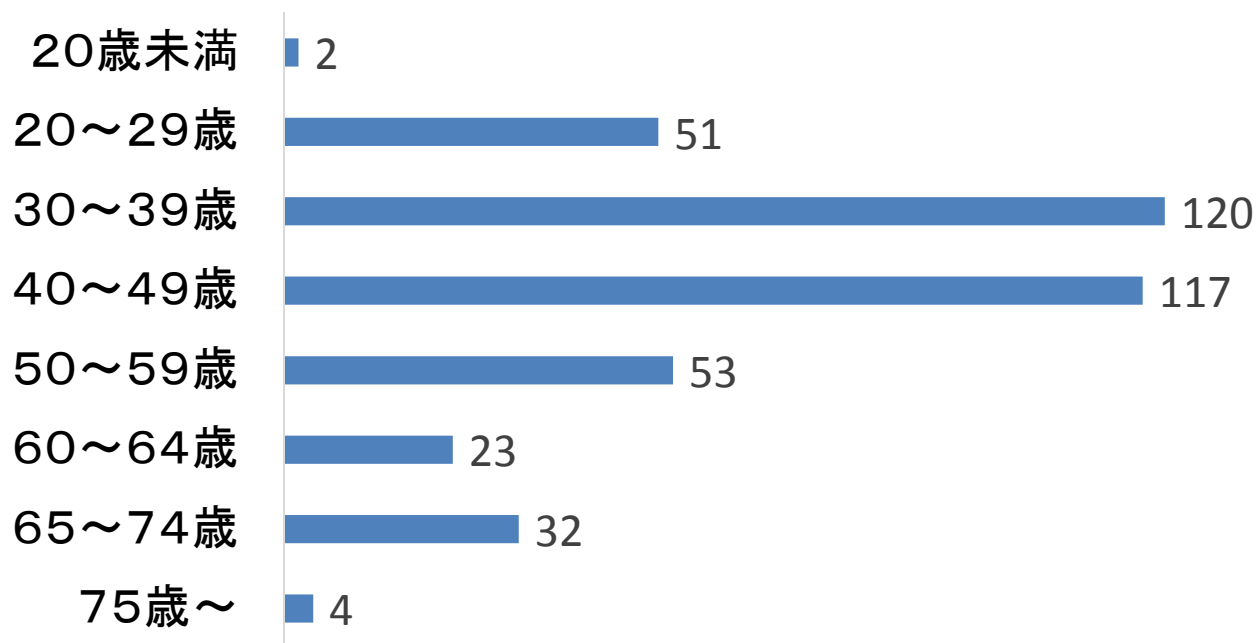
平成26年第2回県政参画電子アンケート  
「介護保険制度と介護保険料負担等に係るアンケート」

期間:平成26年5月30日～6月11日

対象:県政参画電子アンケート会員

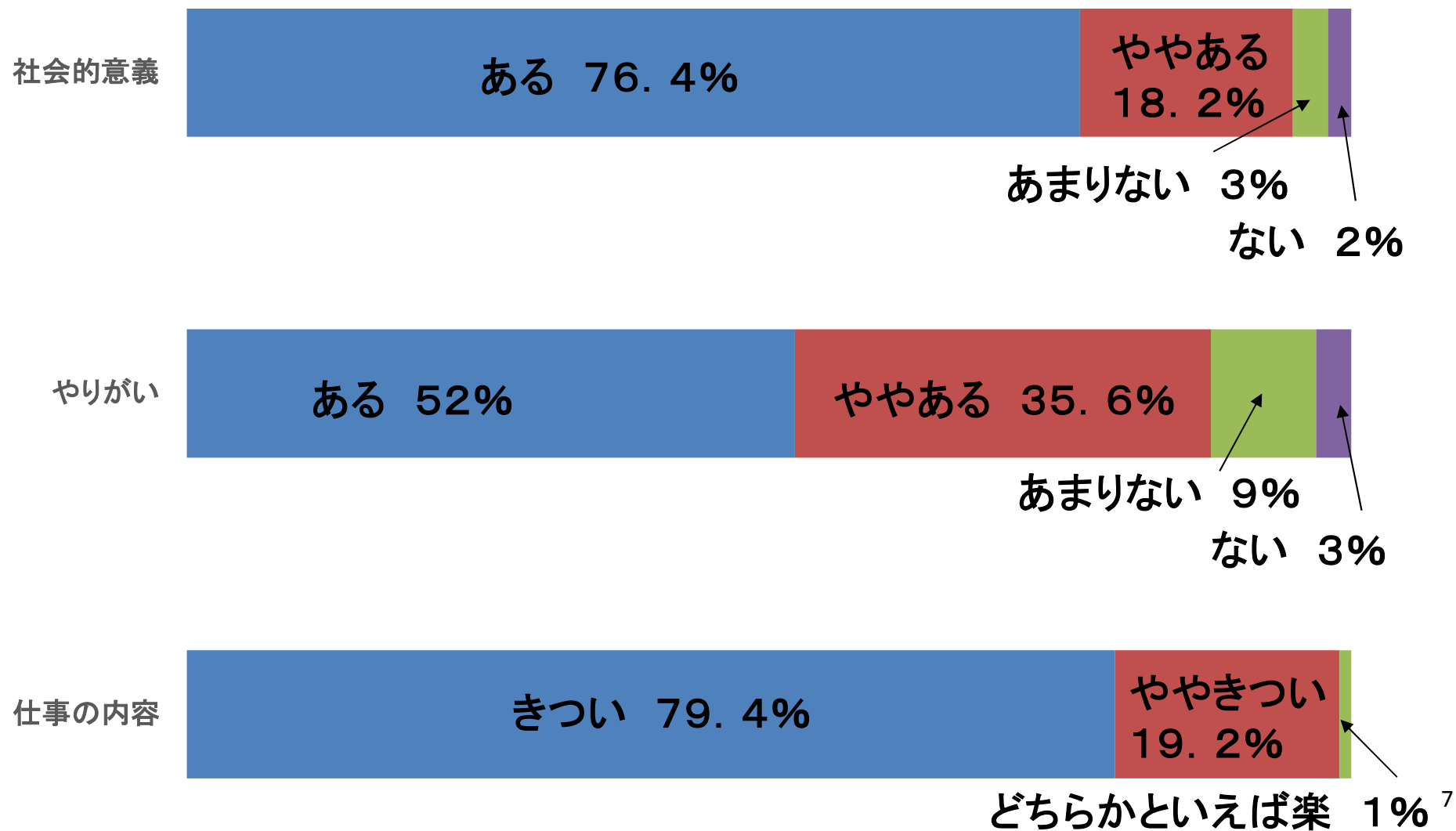
回答:402名/471名(85.4%) (※回答者数は重複回答者除く)

回答者の年齢(単位:人)



# 介護のイメージに対するアンケート調査

(問5) 介護の仕事について、あなたのイメージをお聞かせください。



# 鳥取県の介護人材確保の課題

- 全国平均と比べ需給ギャップは比較的小さいが  
年少人口・生産年齢人口が年々減少  
⇒若い世代の担い手の確保が難しくなる
- 介護の仕事に対するイメージの改善  
⇒介護職に対する正しい理解と重要性を広める
- 若年層を対象とした、  
介護の仕事についてのアピール不足  
⇒介護職に対するマイナスイメージが定着する  
までに介護の魅力(楽しさ・広さ・深さ)を  
アピール



# 介護人材の確保に向けた取組

- 介護人材の確保にあたっては、介護事業者の団体や介護福祉士養成施設、福祉人材センターなど関係者と連携して、介護のイメージアップ・理解を図る取組や介護職員の定着を図る取組等を実施。
- 認知症グループホーム等地域密着型介護基盤の整備は、市町村の取組を支援。

## 鳥取県における介護人材確保の推進に向けた事業一覧

	中高生 (保護者) (学校)	介護福祉士養 成校・学生	若者	子育て世代	シニア層	事業所 (管理者) (法人役員)	他の専門職
<b>参入促進</b>	<b>福祉人材センター運営</b> (福祉人材無料職業紹介(人材バンク)、福祉情報誌「HOTeye」の発行、人材確保相談研修、就職フェアの開催 等)						
・介護の仕事の認知度・イメージアップ ・修学・就労の支援	<b>夏休み介護の仕事体験</b>	<b>福祉の進路選択学生支援</b> (養成校連絡会、高校訪問、職場見学、進路ガイダンス 等)					
	(高校生に内定) <b>修学資金貸付</b>						
<b>資質の向上</b>	<b>介護サービスの質の向上支援事業</b> (「オールジャパンケアコンテスト」の開催支援)		<b>子育て世代等参入促進事業(短時間勤務希望者の就労・資格取得支援)</b>				<b>福祉職場の新任看護職員向け研修</b>
・スキルアップの支援	<b>介護職員の事業所全体レベルアップ事業 (養成校の指導者派遣)</b>					<b>介護支援専門員向け研修</b>	
			<b>介護専門職研修(知識・技術の習得、指導者養成)</b>				
<b>労働環境・処遇の改善</b>	<b>地域医療介護総合確保基金(介護分)補助金事業</b> ・介護事業者団体等による「参入促進」「資質の向上」「労働環境・処遇の改善」の取組支援		<b>社会福祉施設等の職場環境改善研修 (職員、管理者、法人役員等)</b>				
			<b>階層別研修(福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程) (初任者、中堅、チームリーダー、管理職員)</b>				
<b>基盤整備</b>	<b>介護人材確保対策協議会、人材育成に取り組む事業所の認証評価制度</b>						

# 介護の仕事のイメージアップのための取組

- ① 中高生夏休み介護の仕事体験事業(H27～)
- ② ・中学生による介護ロボット体験(H27～)  
・中学生とその保護者を対象とした  
介護のイメージ調査(H27～)
- ③ 高等学校の進路指導担当教諭に対する  
介護の仕事の説明会(H27～)
- ④ オールジャパンケアコンテストの開催支援

【財源】地域医療介護総合確保基金(介護分)

# ① 中高生夏休み介護の仕事体験事業

## 〈事業の目的〉

夏休み中に介護の職場の仕事を体験し、高齢者と触れ合うことで高齢者に対する思いやりの心を育てるとともに、高齢者や介護の仕事を身近に感じ、興味を持ってもらう。

〈実施主体〉 鳥取県

〈参加対象〉 県内の中学生及び高校生

〈実施期間〉 夏休みの期間 半日～1日程度

〈参加費〉 無料



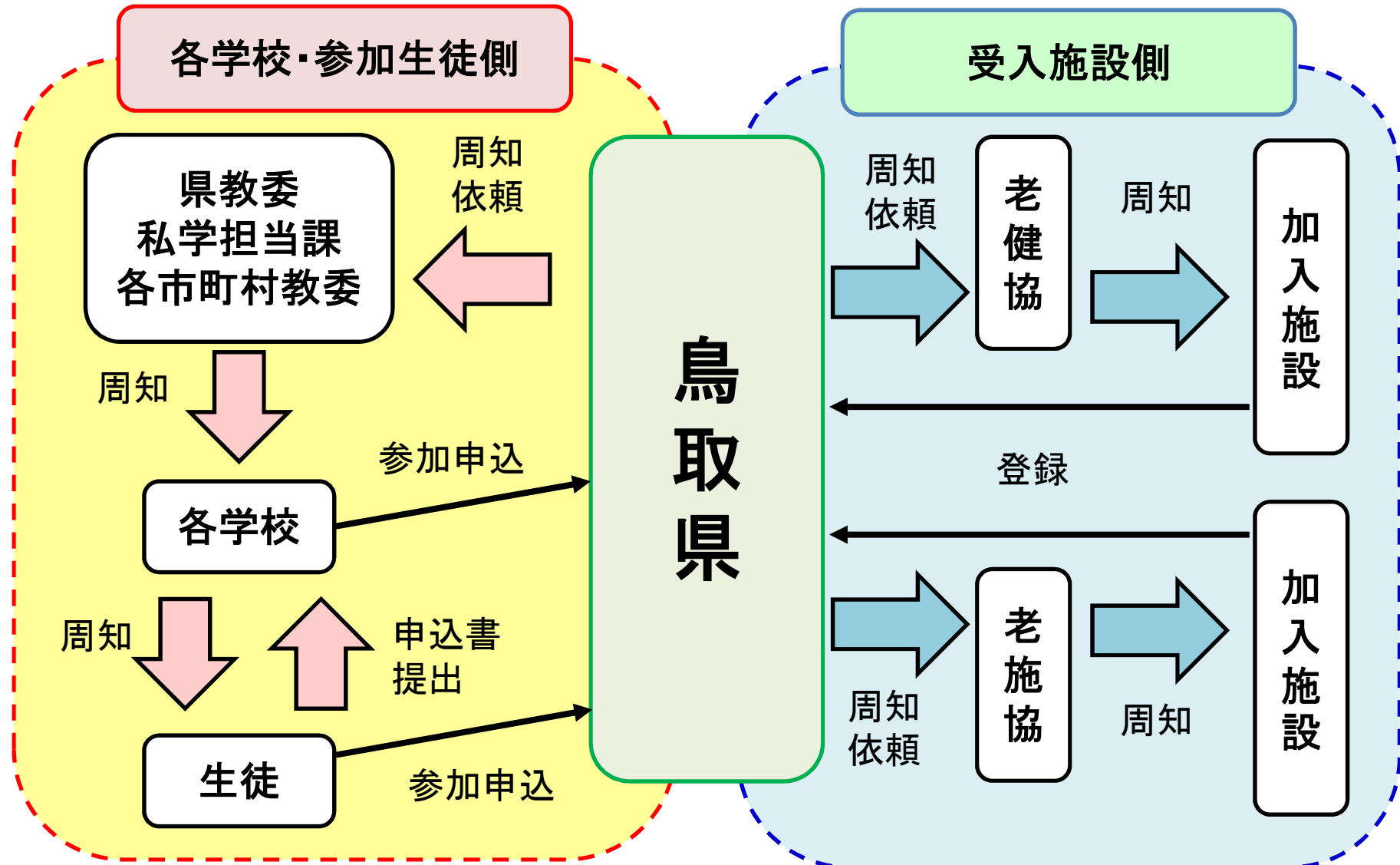
# ① 中高生夏休み介護の仕事体験事業

## 〈体験内容〉

- 利用者との交流、話し相手
  - クラブ活動・レクリエーションの手伝い
  - 介護体験（見学、シーツ交換、食事配膳・下膳など）
  - 入浴後の整容（ドライヤーかけ）
  - 納涼祭準備補助
  - 掃除・環境整備の補助
  - 食事・おやつの介助
  - 車いす利用体験
  - 散歩・室内移動の補助
  - 畑仕事の手伝い
- 等



# 周知依頼・参加申込の流れ



# 事業実施結果：参加生徒

## ○参加生徒数

	男子	女子	合計
中学生	5名 (5.3%)	30名 (31.5%)	35名 (36.8%)
高校生	6名 (6.3%)	54名 (56.9%)	60名 (63.2%)
合計	11名 (11.6%)	84名 (88.4%)	95名 (100%)

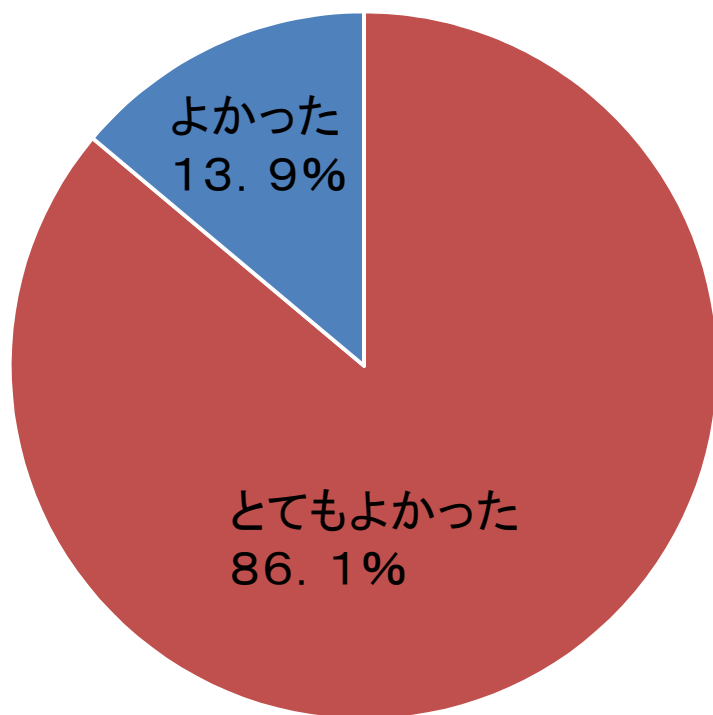
※申込者 96名

詳細な結果データはこちら>><http://www.pref.tottori.lg.jp/129008.htm>

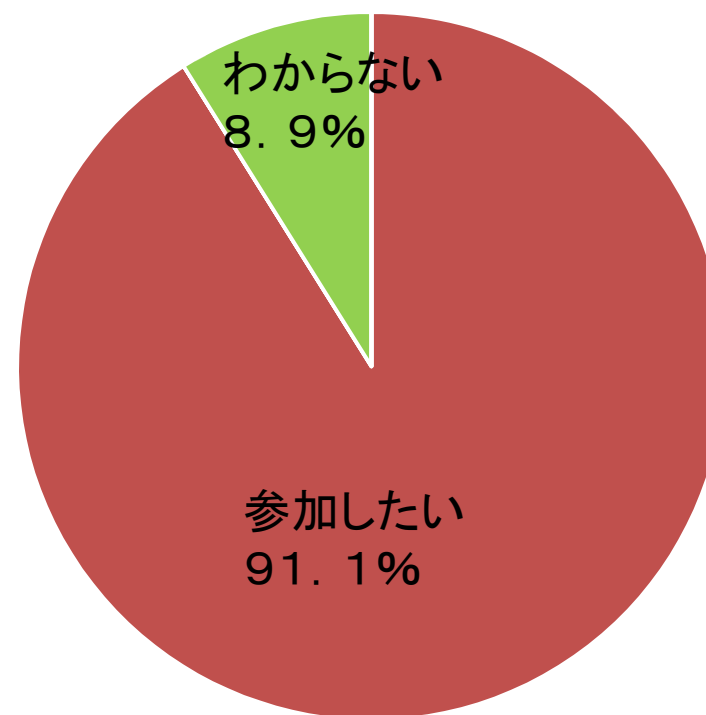
# 事業実施結果：参加生徒

○参加生徒のアンケート(回収率83.1%)

Q.体験してみてどうでしたか？



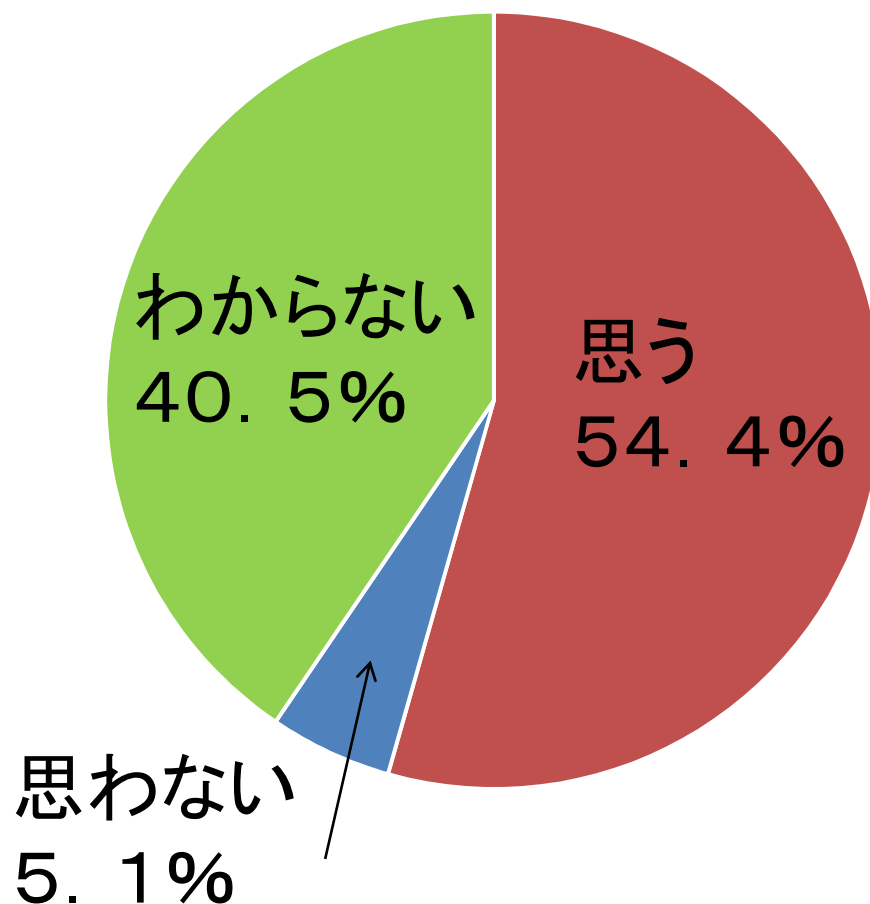
Q.今後も参加してみたいと思いますか？



# 事業実施結果：参加生徒

○参加生徒のアンケート(回収率83.1%)

Q.将来介護の仕事についてみたいと思いますか？





# 事業実施結果：参加生徒

## ○参加生徒の感想

- ・利用者たくさんお話できたから。人生の教訓を教えてください、貴重な話をたくさん聞かせていただいた。(中3・女子)
- ・事前に詳しいオリエンテーションがあり、施設の方々に仕事内容を聞いても丁寧に教えてくださったから。(高2・男子)
- ・1日体験して難しい事や大変な事が分かったが、その分やっていてよかったなと深く感じる事ができたから。(中3・女子)
- ・将来、看護師になるにも老人ホームに参加したことでいい参考や体験になった。喫茶が楽しかった。またしたいです。(高1・女子)
- ・色々な体験を試してみたいです。私は今、すごく進路に迷っているのですが、このような体験は本当にありがたいです。それにたくさんの人と関わりあえるのでいいなって思います。(中3・女子)
- ・どの職員の方も笑顔でとても明るい和やかな雰囲気でした。利用者の方がわからないようなときに何度も丁寧に優しく教えておられて、良い印象しかありません。(中3・女子)
- ・将来介護士になりたいので、とてもいい経験になりました。(高3・女子)

# 事業実施結果：受入事業所・事業所

## ○受入施設・事業所数

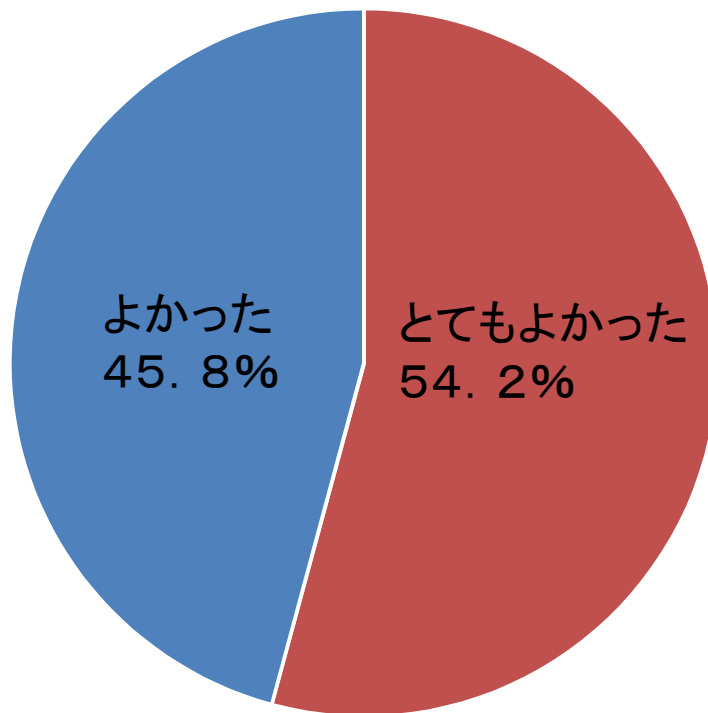
	受入登録施設数	受入施設数
介護老人福祉施設	15件	10件
介護老人保健施設	8件	4件
通所介護	18件	8件
グループホーム	2件	0件
有料老人ホーム 軽費老人ホーム ケアハウス	7件	4件
合計	50件	26件

詳細な結果データはこちら>><http://www.pref.tottori.lg.jp/129008.htm>

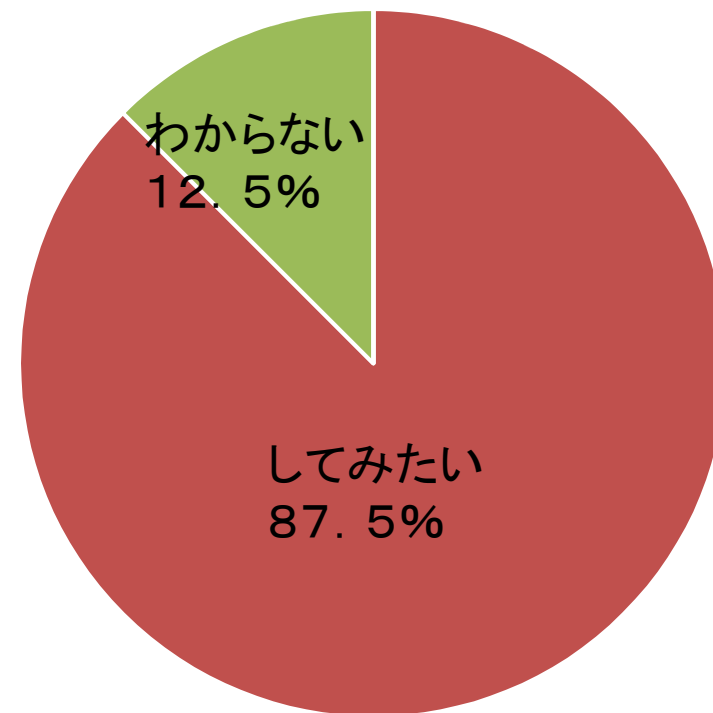
# 事業実施結果：受入事業所・事業所

○受入施設・事業所のアンケート(回収率92.3%)

Q.受入をしてみてどうでしたか？



Q.来年度も受入をしてみたいと思いますか？



# 事業実施結果：受入事業所・事業所

## ○受入施設・事業所の感想

- ・目標をもってボランティアをしてくださっており、また中には将来介護福祉士を目指している方もおられ応援したい気持ちになりました。
- ・利用者も若い方が来て話してくれるだけでとても明るく元気になられた。
- ・初めての現場で不安を取り除きつつ、職員も初心にかえりながら伝達や指導ができた。振り返りをする事ができた。
- ・中高生の頃から介護の仕事を体験する機会が増えることはいいと思う。
- ・すごくいい事業だと思います。このような休みを利用した事業をどんどんしていただきたい。
- ・福祉の仕事をどんどん知ってもらい、「大変」ではなく「楽しい」というイメージに変えてもらい、就職希望もしていただきたい。職員も自分の振り返りとなることも多くあるので、ぜひ参加していきたいと思う。
- ・高齢者と同居する中高生は減っているので、まず交流する機会を持つのは良いと思います。利用者の方々は介護職を目指す、目指さないに限らず交流を好まれるので、受入は続けたいと思います。

# 今後の課題

## ○受入日数の検討

⇒施設側から「1日では体験できることが少なく、時間が少ない」との声あり

## ○介護の仕事に携わる職種の周知

⇒看護師や理学療法士などの職種も介護現場で働いていることを広め、  
他職種に関心を持つ中高生の参加を促す

## ○事業に関心を持つ学校を増やす

⇒参加生徒ゼロの学校を少なくしていきたい



## ②中学生による介護ロボット体験

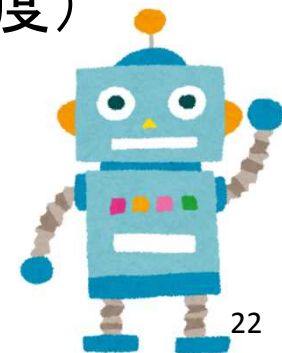
### 〈事業の目的〉

中学生に介護ロボット体験をしてもらい、介護に興味を持ってもらうとともに、マイナスイメージの大きい介護現場について、正しい理解と将来の職業として選択可能な知識を身につけてもらう。

〈実施主体〉 鳥取県老人福祉施設協議会

〈協力〉 大和ハウス工業株式会社(大阪府)

〈参加対象〉 県内の中学生  
(県内3圏域で1校・1学年ずつ、各70名程度)

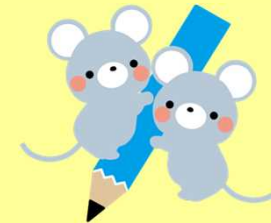


## ②中学生による介護ロボット体験

### 〈授業の流れ〉

#### 前半：スライドを使って講義

- 高齢化社会について
- 介護保険制度について(簡単に)
- 介護ロボットや高齢者疑似体験器具等について
- 当日やってきたロボット等の紹介
- HAL(腕用)の装着体験



#### 後半：実際に体験

- 3ブロックに分かれた体験ブースでクラスごとにまとまって介護ロボット体験

# マスコミによる報道

朝日新聞  
平成27年12月3日(木)



**介護ロボで楽々**

鳥取市立鹿野中学校(同市鹿野町鹿野)で2日、全生徒78人が介護者の負担を軽くする最先端の介護ロボットを体験した。介護技術を身近に感じてもらうと、県内の介護事業所をつくる県老人福祉施設協議会

**鹿野中生体験**

ロボットスーツを身につけ、段ボール箱を持ち上げる生徒＝鳥取市立鹿野中学校

(鳥取市)が主催した。生徒たちは、介護ロボット事業に参入している大和ハウス工業(大阪)の社員から、介護現場でのロボットの役割について説明を聞いたあと、ロボットベンチャー「サイバーダイナ」(茨城県つくば市)が開発した「ロボットスーツHAL(腰タイプ)」を装着。中身が入ったベクトルボックスが詰められた段ボール箱を持ち上げるなどした。

高田海星君(3年)は「腰に勝手に力が入る。不思議な感覚」と感想を話した。大和ハウス工業によると、HALを使えば腰への負担が6割ほどに抑えられ、人を抱き上げることも比較的楽にできるという。

協議会によると、県内の介護事業所でも中高年の働き手が増えていることから、ロボット導入を検討する動きが広がっている。岩城隆志副会長(59)は「3Kの印象が薄い介護の現場が変わりつつあることを知ってほしい」と話した。

(植橋利弘)

毎日新聞  
平成28年1月18日(月)

ス工業ロボット事業推進室の担当者が「少子高齢化の進行で介護現場が人手不足になっており、介護ロボットの導入が増えている」と説明した。

ロボット体験では、車椅子をけん引して坂道や悪路をスムーズに移動できる装置や、安全に立ち座りや歩行訓練ができるリフト、腰に装着して人や物を楽に持ち上げられるスーツなどを体験した。

板見慧人君(14)は「介護ロボットを使って体の不自由な方が楽になるのはいいこと。介護の仕事に少し興味があった」と効果を感じていた。



■中学生が介護ロボット体験 中学生に介護の仕事に関心を持ってもらおうと、介護ロボットの装着体験が16日、倉吉市宮川町2の倉吉東中であり、生徒たちが介護や動作をサポートするロボットの重要性を体感していた＝写真。

県内の老人福祉施設やデイサービスセンターなどで組織する県老人福祉施設協議会が、鳥取市と米子市に次いで開いた。この日は2年生78人が進路学習の一環で参加。大和ハウ



## ②中学生とその保護者を対象とした介護のイメージ調査

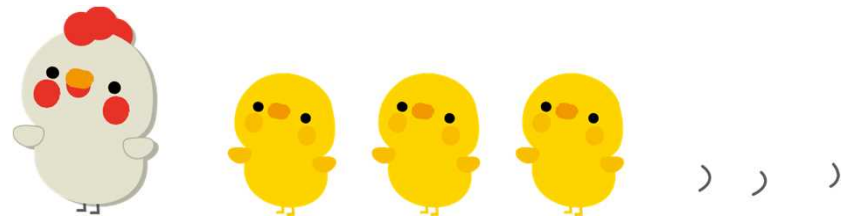
### 〈事業の目的〉

中学生とその親を対象とした介護職に対するイメージ調査を実施し、その意識実態を明らかにした上で今後の介護を担う人材の確保方策の基礎資料とする。

〈実施主体〉 鳥取県老人福祉施設協議会

〈参加対象〉 県内の中学生とその保護者  
(県内3圏域で1校・1学年ずつ、各70名程度)

※介護ロボット体験事業と同時に実施



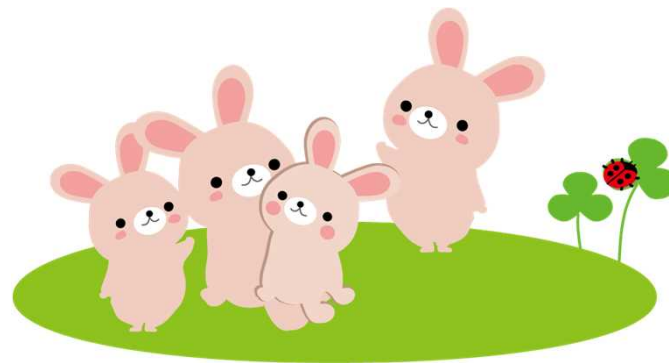
### ③高等学校の進路指導担当教諭に対する介護の仕事の説明会

#### 〈事業の目的〉

高校の就職担当教員や専門学校就職担当職員を対象に介護の仕事説明会を実施することで、介護現場の現況、将来像(スキルアップ)等について理解を図り、介護職へのマイナスイメージ払拭と、県内の福祉関係への就職につなげる。

〈実施主体〉 鳥取県老人福祉施設協議会

〈参加対象〉 各圏域の高校の就職担当教員や専門学校就職担当教員



## ④ オールジャパンケアコンテストの開催支援

### 〈事業の目的〉

全国の介護従事者を選手として募り、日ごろの介護技術や心構えを披露していただくことで、介護職員のスキルアップと地域の介護への理解促進を図る。

〈実施主体〉 オールジャパンケアコンテスト実行委員会  
(事務局: 社会福祉法人こうほうえん)

〈県の支援〉 平成24年度(第3回オールジャパンケアコンテスト)から補助金を交付し支援

〈平成27年度の開催〉 平成27年10月10日(土)  
米子コンベンションホール



## ④オールジャパンケアコンテストの開催支援

〈コンテストの内容〉

- ①6つの分野に分かれて技術を競うコンテスト。  
事前レポートと当日の7分間の実技で評価し、優秀者を決定  
※経験年数によってA・Bの2部門に分かれる

食事

入浴

排泄

認知症

口腔ケア

看取り

- ②介護・地域包括ケアに関する基調講演  
平成26年度(第6回):地域包括ケアシステムの構築に向けて  
平成27年度(第7回):認知症予防の最新情報

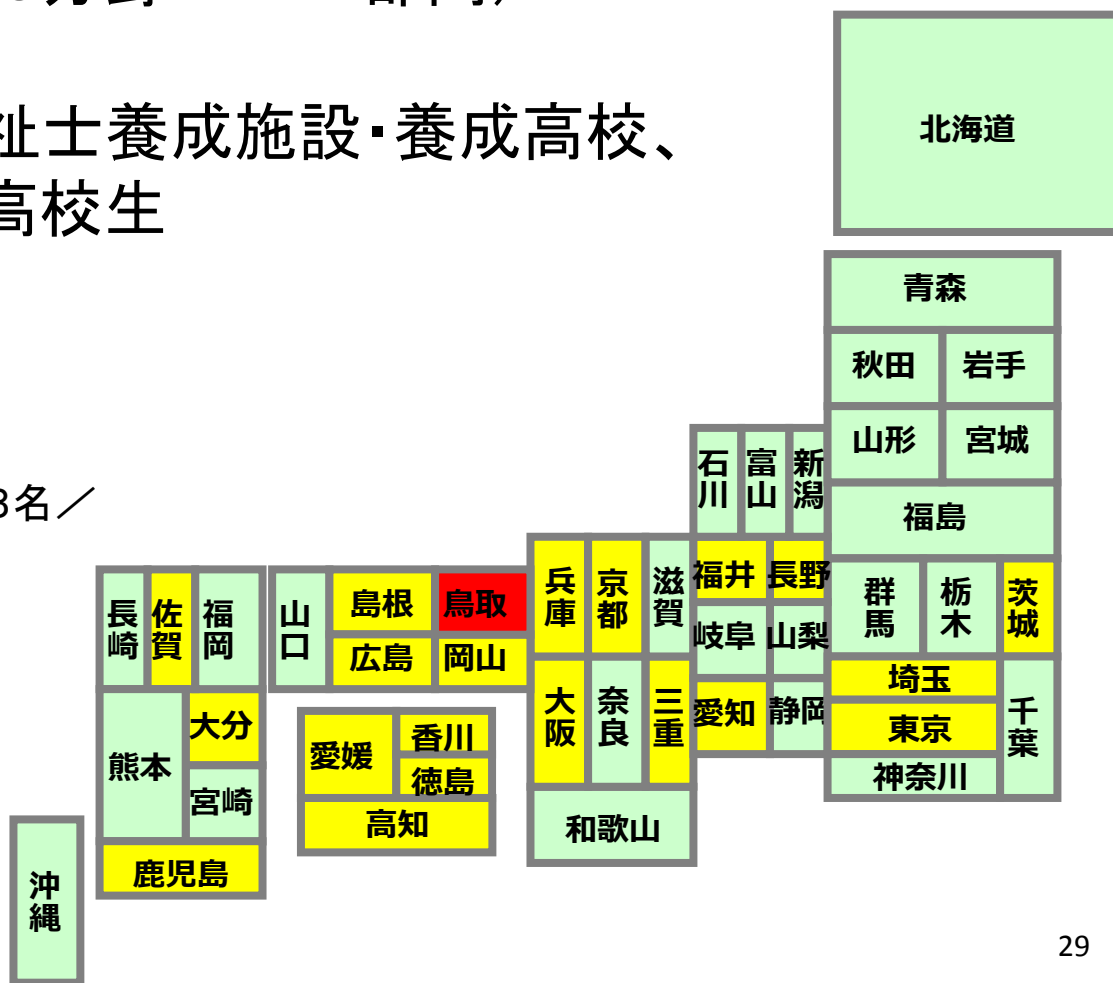
# ④ オールジャパンケアコンテストの開催支援

## 〈参加者数〉

- ・出場選手 120名  
(10人／1分野 × 6分野 × 2部門)
- ・アドバイザー 25名
- ・ボランティア...介護福祉士養成施設・養成高校、  
地元の高校生
- ・来場者 約3,000名

## 〈出場者の出身県〉

茨城県5名／埼玉県1名／東京都3名／  
 長野県4名／愛知県3名／  
 三重県4名／福井県1名／  
 京都府5名／大阪府13名／  
 兵庫県10名／岡山県11名／  
 広島県2名／鳥取県27名／  
 島根県13名／徳島県1名／  
 香川県5名／愛媛県1名／  
 高知県3名／大分県2名／  
 佐賀県1名／鹿児島県5名



# 平成27年度のコンテストの様子

第6回 オールジャパンケアコンテスト



# 平成27年度のコンテストの様子





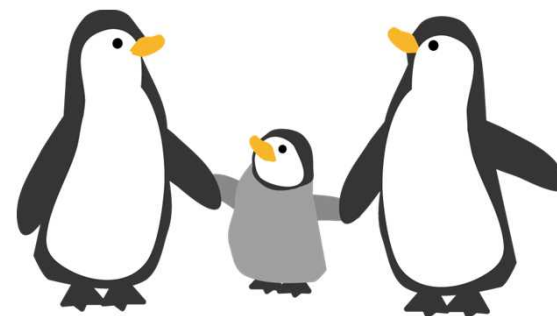
# 平成27年度のコンテストの様子





# 今後の展開に向けて

- 幅広い世代が介護に触れることができる取組
  - 中高年の方の介護ボランティア
  - オールジャパンケアコンテストなどの一般の方も気軽に見学できるイベントを広く周知
- 介護のイメージアップとともに、働きやすい職場環境改善が必要！
  - 短時間勤務の導入
  - 介護職員のスキルアップ
  - 認証・評価制度の導入



# 年齢を超えて助けあう 支え愛の鳥取県へ

ご静聴ありがとうございました。

